

椎茸栽培の現状

- 品質向上、収量安定を目指して、散水設備等の導入がすすむ。
 管内の生産者20名(生産量100kg)
 のうち 散水設備6名 ピニール被覆10名
 ↓
 施設を十分に使いこなしていない。
- 直売所への生しいたけ出荷が増加
 出荷が一斉のため価格が暴落、売れ残りが発生

課題と対策

- 散水設備等施設能力の活用
 ↓
 施設を利用した栽培技術の定着
- 生しいたけの高値出荷、価格の安定
 ↓
 有利な販売先への出荷促進

普及内容

- 施設を利用した栽培技術の定着
 対象者 施設整備を導入した生産者4名
 内容 設置後の効果検証
 施設利用技術の指導

目標 (施設整備導入3年後)

- 収量向上 単位収量(千本当)を30%up
- 品質向上 (乾しいたけ・生しいたけ) 加工比率 → 上位等級率 → 10%以上 (県平均 1%)
 (生しいたけ) 生産量の30%
 厚く、色よし、形よし
- 収益向上 単位

25年秋から26年春の椎茸発生状況



近年のなかでは、気象変動に大きく左右されました

対前年度比**85%**の生産量



参考: 菌蕈2014. 4. 6号

施設整備者への聞き取り結果

(25年秋から26年春の椎茸発生状況)

	収量		品質		金額
	単位収量 (kg/千本)	加工比率	上位等級率	生比率	単位収益 (円/千本)
A	88%	8%	13%	1%	102%
B	100%	13%	8%	11%	126%
C	88%	21%	6%	19%	140%
D	113%			53%	130%
鳥取県	85%	41%	1%		
目標(3年後)	130%	15%以下	10%以上	30%以上	143%以上

収量・金額は施設設置前と対比した数字、生比率は前年度対比

Bさんの場合

防風ネット・ビニール被覆・散水施設設置



	単位収量 (kg/千本)	加工比率	上位等級率	生比率	単位収益 (円/千本)
B	100%	13%	8%	11%	126%
目標	130%	15%以下	10%以上	30%以上	143%以上

収量・金額は施設設置前と対比した数字、品質は前年度対比

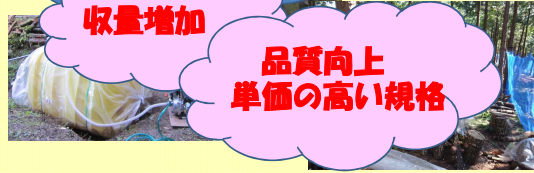
散水設備を使いこなすと

【春期乾燥対策・成長散水】

しいたけが大きく

収量増加

品質向上
単価の高い規格



散水



成長散水により収量を確保

更なる増収を目指して

椎茸のもと(原基)づくりのための散水を実施



Bさんの場合

施設整備で増収益

生産量(乾重量)	1,75kg	2,4kg	
乾しいたけ			
生しいたけ			
販売額①	747,497	1,004,528	257,031
燃料代② (70円/L)	62,939 (4.1・/kg)	32,760 (2.4・/kg)	▲30,179
施設整備経費③	0	89,007	89,007
防風ネット、散水セット、ビニール被覆 ※設置作業に18日程度必要です。			
差し引き①-②-③			198,203

参考: 原木しいたけ良品生産・コスト削減実証事業

～施設整備した生産者が効果を報告～

設置を推進

普及内容

2 有利な販売先への出荷促進

対象者 生しいたけ出荷を希望する生産者

内容 有利な販売先紹介
出荷先の求める品質管理・栽培指導

目標 生産者5名が出荷

有利な販売先(菌興椎茸協同組合)

生しいたけ

<p>現行(直売所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売れ残りが発生 ・価格変動 <p>100~150 (円/100g)</p>	→	<p>新たな販売先(菌興)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全量買い取り ・価格が安定 <p>130~200 (円/100g)</p>
---	---	--

有利な販売先(菌興椎茸協同組合)

生しいたけ

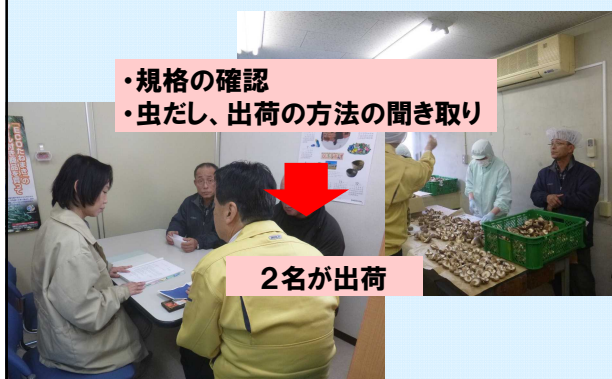
新たな販売先(菌興)

- ・日和子のみ、ビニール被覆、袋かけ等雨子対策が必要
- ・虫だしは必須

～生産者を対象に研修会を開催～

16名が参加

～生産者2名が出荷先を視察～



～ほだ場での個別指導～



しいたけがほだ木に当たらないように
伏せ込み、袋かけの改善を指導



成果

1 施設を利用した栽培技術の定着

単位収量 (目標130%以上) 97%

品質 加工比率 (目標15%以下) 18% → 14%
 上位等級率 (目標10%以上) 7.1% → 9%
 生出荷比率 (目標30%以上) 21%

加工比率は
目標達成

単位収益 (目標134%以上) 124%

成果

2 有利な販売先への出荷促進

生しいたけ出荷 生産者2名 23kg
 菌興椎茸協同組合 130～200円/100g



売れ残りが無いのいい。
もっとたくさん出荷したい。

残された課題

1 施設を利用した栽培技術の定着

施設整備の能力を最大限引き出せる指導
 未設置者への設置効果の普及



残された課題

2 有利な販売先への出荷促進

生しいたけ

出荷者 2名→5名

出荷量 1000kg (生出荷量の5割)

